

出張報告書(海外用)

1/6頁

所属 (大学・短大)	京都文教大学	所属 (学科・部署)	総合社会学科		提出日	2024/12/13
職名	教授		出張者氏名	潘 宏立		
日 時	2024年11月1日 (金) 7時00分 ~ 2024年11月5日 (火) 20時00分			うち機中泊	泊	
行 先	台湾台中市(中台科技大学)					
目的・内容	国際シンポジウム(2024年「浩天媽祖・澤被海邦」国際学術研討会)への参加、研究発表など					
主催学会団体等	浩天宮管理委員会・台湾媽祖文化研究協会・中台科技大学・オーストラリア媽祖文化協会など					
研究・調査発表等概要	<p>日本大阪・神戸地域における媽祖信仰の歴史及びその発展 (発表概要)</p> <p>中国福建省湄洲島から発祥した媽祖信仰は中国東南沿海部に広がってから、最初に海外への伝播方向は東側の日本である。15世纪前後、媽祖信仰は現在の沖縄地域に入った。洪武末年(1398)福建から那覇久米村の付近に移住してきた華人(「閩人三十六姓」と呼ばれている)は上天妃宮と下天妃宮をつくった。それから中国東南沿海部の華人の活動はさらに東方向へ拡大とともに、16~17世纪から媽祖信仰は東北方向の日本本土の南西部にある九州南部の薩摩地域、南西部の長崎地域などへ伝來した。その後さらに日本列島へ北上し、18世紀前後に本州最北端の青森県大間半島までに到達した。19世纪中期以後、華人の本州関西地域の大坂、神戸、京都への移住とともに、媽祖信仰も本州西部の華人社会に浸透するようになった。</p> <p>阪神地域の媽祖信仰の特徴の一つは独立した媽祖廟の設立が見られないことであり、媽祖像は関帝廟の中に祀られている。日本一の古い大阪関帝廟や神戸関帝廟、更に2023年末福建系の新華僑が造られた大阪西成区の新大阪関帝廟にてもいずれも媽祖像が祀られている。本研究では先行研究の文献資料に基づき、筆者の現地調査で収集した豊富な一次的な資料を加え、大阪と神戸地域における媽祖信仰の歴史及びその発展状況、近畿の華人社会にある同郷会組織との関係、媽祖信仰と華人アイデンティティーなどの諸問題について研究の成果を報告する</p>					
	<p>久しぶりに台湾(中台科技大学)で挙行された媽祖研究国際シンポジウムに参加できた。</p> <p>媽祖信仰文化に関する最新の研究成果を聴講し、議論することができました。</p> <p>台湾および海外からの研究者と学術的な交流することができました。</p>					
研究成・果調査発表等	<p>本学のともいき共同研究プロジェクトの日本媽祖研究の状況を参加者に紹介しました。</p> <p>私の日本媽祖研究成果の一部分を発表し、好評を頂きました。</p> <p>台湾媽祖文化研究協会を訪問し、その組織構成および研究状況を調べました。</p> <p>中台科技大学の学長と懇談し、本学の基本状況および媽祖研究の最新進展を紹介しました。</p> <p>台中にある浩天宮、万春宮、南興宮などの媽祖廟を訪問調査することができました。</p>					

研究調查活動經過報告書（海外用）

2/6頁

出張報告書(海外用)

3/6頁

○本出張によって得られた研究成果を下記①～⑤で発表の予定があれば該当するものを記入してください。

- ①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）、
- ②図書（著者名、出版者、書名、発行年、総ページ数）
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）、
- ④授業での活用、
- ⑤その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

研究 成 果 記 入	① 『浩天媽祖・澤被海邦 国際学術研討会論文集』（シンポジウムの論文集）に刊出し ました。 潘の論文テーマ：「日本阪神地区媽祖信仰的歴史與發展」P. 149-170
	②
	「浩天媽祖・澤被海邦 国際学術研討会シンポジウム」で研究発表を行いました。
	③
	授業での活用 ④
	⑤ 本学ともいき共同研究である日本媽祖研究チームの先生たちへ報告し、媽祖研究に関する情報や収穫を共有します。

○該当するものを以下に記載し、添付資料としてご提出願います。【必須】

記入例	発表の方	調査の方	セミナー参加者
	プログラム、抄録、原稿、 PPTスライド等の写し 記録写真	収集資料写し、 調査状況関連の資料等の写し、 記録写真	配布資料写し、 講義記録写し、 記録写真

添付書類記入【必須】	プログラム ①
	抄録 ②
	原稿 ③
	PPTスライド等の写し ④
	記録写真 ⑤

※意見等欄は記入不要です。 次ページからの写真資料等はWebページでの公開を省略させていただきます

※意見等	1	印
	2	印
	3	印